

福島県環境審議会第1部会（平成17年6月16日）の意見

『審議会当日の意見』と後日に頂いた『文書による意見』

1 - 4

意見箇所	委員	意見の内容
4 現状と課題 (2) 資源循環 について	紺野委員	「最終処分場」の過不足について、見通しを聞かせていただきたい。
6 施策の展開 (1) 自然循環 森林の保 全・整備等	引地委員	(修正案：下線部分の追加) 具体的には、森林には人手をあまり加えず保護されている原生林・遺伝子保存林と人手を加え管理しないと荒れてしまう里山の人工林がある。そこで、人工林は森林施業を計画的に推進し、・・・。
6 施策の展開 (1) 自然循環 持続性の 高い農業生	須藤委員	「持続可能な農業の～の導入を促進し、」の部分で、もう少しわかりやすく具体的に書いて欲しい。「必要な措置」という表現があるが、文章全体が抽象的でわかりづらいところがあるので、具体的に書いてほしい。(農業 自然の整備 観光のようなことを入れ込めないか)
6 施策の展開 (1) 自然循環 健全な水	引地委員	(修正案：下線部分の追加) 排水処理施設(山村部の集合処理施設、都市部の下水処理施設、事業所の排水処理施設)等の適正な整備・・・。
6 施策の展開 (1) 自然循環 猪苗代湖	引地委員	(修正案：下線部分の追加・修正) 循環が保全されるように流入水の水質保全のための排水処理施設の適正な整備や環境にやさしい循環型農業の促進等を推進する。
6 施策の展開 (1) 自然循環 緑化の推	長澤委員	「都市部における公園等の整備により」というのは非常に限定された言い方で、今、我々の住んでいる居住区、街路すべてに緑化がなされており、災害防止、二酸化炭素の低減という役割もある。非常に言葉足らずだと思うので、もう少し大きな枠組みで文書に入れて頂きたい。
6 施策の展開 (2) 適正な資 バイオマ ス製品の利 用促進	引地委員	「バイオマスのリサイクル」という植物と木質系バイオマスの間の循環の表現があっても良いのではないかと。樹木を植林していくということでも良いが、ただ燃やすだけでなくバイオマスのリサイクル、そして環境にやさしい時代にしていくといった表現がここにあった方が良い。生ごみの循環ということでもバイオマス、そのリサイクルということができる。
	引地委員	(修正案：下線部分の追加) バイオマス製品の使用、植林・木材加工事業を促進してバイオマスリサイクルを活性化するための必要な措置・・・。

福島県環境審議会第1部会（平成17年7月29日）の意見

2 - 4

意見箇所	委員	意見の内容
1 計画策定の背景と目的	後藤委員	環境に負荷をかけているのは事実で、ゼロにはできないという前提があるとおもうので、「 <u>できるだけ負荷を与えないような</u> 」の表現の方が良い。
	中村委員	この計画には、持続性の高い地球環境というものが前提にあることから、「 <u>持続可能な恵み豊かな環境を・・・</u> 」にした方が良い。
4 現状と課題 (1) 自然循環	後藤委員	自然に関する記述に時間的な観点を入れて欲しい。例えば、「 <u>・・・豊かな自然に恵まれています。そのような自然は地球史的な長い歴史を経てつくられてきたものであり・・・</u> 」といった表現がよいか。
	福島委員	いくつかの項目に使われている「ライフスタイル」と「生活様式」等について、使い分けると別の意味があるように思ってしまうので統一して使った方が良い。
4 現状と課題 (3) 生活様式・行動	後藤委員	再認識されている歴史の何なのかの言葉が欲しい。
5 福島県が目指す循環型社会 (3) 心の豊かさを重視した	長澤委員	「もったいない」の他に「和」という言葉がなぜここに入ったのか。
	中村委員	「和」だけでなく、「協調」とか「共生」とかいった言葉を入れても良いのではないか。「ありがたい」という言葉も非常に大事。日本の精神文化を支えているキーワードについては、もう少し皆で検討してみてもどうか。
	大越委員	誰もが同じように読める文章にしておかなくてはならない。
	後藤委員	別のキーワードとして、「いただきます」や「ごちそうさま」という言葉を盛り込んでいってはどうか。
	岡崎委員	この「和」の他に12ページの「節度(を保ち)」の記述については削除するなり再検討をしてほしい。
6 施策の展開 (1) 自然循環性の高い農業	後藤委員	農業生産の場だけでなく、生物生息の場としての政策という観点から、農的な空間を生存場所としている動植物の生存に関する記述を入れて欲しい。
	長澤委員	荒廃した農地の回復の施策を入れてほしい。(又は、へ)
	須藤委員	「持続可能な農業の・・・導入を促進し、」の部分をもう少し具体的に分かり易く書いて欲しい。
6 施策の展開 (1) 自然循環水産資源	後藤委員	持続的な漁法の具体的な施策として、「養殖」といったものを入れてほしい。
6 施策の展開 (1) 自然循環野生動物	後藤委員	「移入生物」からの固有種、地域種の保全ということを入れたほうが良い。
6 施策の展開 (1) 自然循環緑化の	後藤委員	エコロードの整備の関係で、生物の移動を担保する緑のネットワーク化(国の施策では、「緑の回廊」と言っている。)のことを入れてほしい。
6 施策の展開 (2) 適正な資源及	長澤委員	「エコ住宅」の推進を入れてほしい。

福島県環境審議会第1部会（平成17年7月29日）の意見

意見箇所	委員	意見の内容
6 施策の展開 (2) 適正な事業者	後藤委員	一般家庭における「環境家計簿」の普及を図るなら、事業者に対しても、「環境会計」とか「環境報告書」の導入を図るといった表現を入れてほしい。
6 施策の展開 (2) 適正な地産地	長澤委員	生産者と消費者の直販・直売というのを書き込めないか。
6 施策の展開 (3) 心の豊かさ	岡崎委員	「節度を保ち」はない方が良い。
	後藤委員	意味を持ちながら表現を和らげることができることから、「節度を保ち」を「足るを知る」言葉に置き換えて「もったいない」の次に入れてはどうか。
6 施策の展開 (3) 心の豊循環型	大越委員	科学的データ等に基づかない根拠のないものが「環境保全に良い」とか「きれいにする」とか、悪質商法まがいのようなものが広まらないよう、裏づけのあるものは推奨するが、ないものは施策に入れないというようなことが書き込めないか。
6 施策の展開 (3) 心の豊県民等	長澤委員	「県内で広がっている「もったいない運動」をはじめ・・・」とあるが、今までに県内で地道に自発的に活動に取り組んできた人たちもいる。その人たちに敬意を払う意味で、その人たちの活動を先に記載すべきでないか。
	長澤委員	「うつくしま環境パートナーシップ会議を運営します。」という記述があるが、相互連携で環境保全を推進する取り組みは他にある。県民、事業者及び行政が理解しあって、共感しあって環境保全を推進するため、お互いの立場を尊重し、共通認識を持つことの項目を入れると良い。
	中村委員	「うつくしま環境パートナーシップ会議をはじめ、その他の環境に関する交流会等を支援します。」というような記載も考えられる。
7 計画の推進 (1) 県民の役割	引地委員	県民の「排出者責任」というのは強すぎるという話だったが、生活系廃棄物は、市民が多く出すわけで、分別されていないなど処理に苦労している面がある。市町村も膨大な処理費用をかけている現状も踏まえて、事業者だけでなく消費者にも排出者責任はあるということを強調すべきであり、表現をやわらげてでも何か書かなくては徹底しない。
	長澤委員	自らのライフスタイルのセンテンスを2つの項目に分離できるのではないか。
	中村委員	自らのライフスタイルのセンテンスを3つの項目に分けることができるのではないか。
7 計画の推進 (3) 事業者の役割	後藤委員	「リサイクルしやすい材料を使用して・・・」を3Rの趣旨から、「再使用、再生利用しやすい・・・」としてはどうか。
7 計画の推進 (4) 行政の役割	福島委員 中村委員	グローバル化の中で、1つの県だけではなかなか難しい問題もある。一人ひとりの県民が頑張ってもなかなか難しいことから、国としては、県、市町村、国民がやろうとしていることをサポートしていくというような「国の役割」を、国策の中で県としてこのようにやっていくということのアピールの意味も含めて書き込めないか。

福島県環境審議会第1部会（平成17年7月29日）の意見

意見箇所	委員	意見の内容
7 計画の推進 （4）行政の 役割 県	引地委員	リサイクルしていくためには他県との共同事業というものも重要であり、「調整」と言う言葉だけでなく、もう少し具体性を持たせた記述が必要ではないか。
別表	福島委員	「もったいない50の実践」について、「もったいない」というのをどのようにイメージしてもらうかを考えたものにしてもらわないと、誤った、或いは軽いイメージを伝えてしまう恐れがある。ここは、推進計画のイメージ・精神が具体化される部分であると思うので、コンセプトを持った「50の実践」を出していただきたい。